

5. 仕上げと防水

5-1. 外装仕上げ

ヘーベルライトの外壁面には必ず防水仕上げが必要で、通常吹付け防水とします。また、外部側、内部側とも仕上げが必要です。素地を露出して使用すると、製品ロットによる色違い、パネルの補修箇所や傷、汚れなどが目立つことがあります。また、パネル表面の粉落ちに対しても配慮が必要です。内部側の仕上げについては「5-3. 内装仕上げ」をご参照ください。

一方、タイル張り仕上げは、タイル割付けをパネル割付けに合わせ、かつパネル目地をモルタルが拘束してパネル毎の動きを妨げることがないようにする必要がありますが、ヘーベルライトは現場切断が多くこのような配慮が難しいため原則不可とします。

1 外壁仕上げの適否

外壁仕上げの種類には、仕上塗材での仕上げ、張り仕上げなどがあります。外壁仕上げ材選定の目安をまとめると下表の通りです。選定にあたってはこの表の他JASS23(吹付け工事)、JASS18(塗装工事)もご参照ください。

分類	概要	種類	特徴	適否
複層塗材仕上げ	下塗材、主材および上塗材の3層からなり、吹付けやローラー塗りまたはコテ塗りなどにより外壁を仕上げる工法です。一般に防水性が高く透湿性が低い性質を持っています。	複層塗材 E (アクリルタイル)	耐候性、防水性、耐アルカリ性にすぐれており、作業性がよく使いやすいため、最も多くの使用実績があります。	○
		複層塗材 Si (シリカタイル)	耐候性、耐汚染性、不燃性にすぐれ、防水性、放湿性を併せもち塗膜表面が堅牢です。	○
		複層塗材 CE (セメント系吹付けタイル)	耐候性、防水性、耐アルカリ性が高く、塗膜表面が堅牢です。	○
		可とう形複層塗材 CE (セメント系吹付けタイル：可とう性、微弾性、柔軟性)	セメント系素地に対して付着が安定しています。下地との付着性をいかに発揮させるかが重要なポイントとなり十分な調整が必要です。	○
		防水型複層塗材 E	透湿性が比較的低いため、下地の調整、乾燥に注意が必要です。	△
		防水型複層塗材 RS		△
		防水型複層塗材 CE		△
		防水型複層塗材 RE		△
薄付け塗材仕上げ	単層で吹付けやローラー塗りまたはコテ塗りなどにより外壁を仕上げる工法です。透湿性が高く、防水性が比較的低い性質を持っています。耐久性に劣るため維持管理には注意が必要です。	外装薄塗材 E (樹脂リシン)	防水性能を確保するため、特に十分な下地処理が必要です。	△
		可とう形外装薄塗材 E (弾性リシン)		△
		外装薄塗材 S (溶液リシン)	溶剤系のためセメント系等下地調整塗材の選定に注意が必要です。	△
		防水形外装薄塗材 E (単層弾性)	透湿性が比較的低いため、下地の調整、乾燥に注意が必要です。	△
塗材厚付け	単層で吹付けやローラー塗りまたはコテ塗りなどにより外壁を仕上げる工法です。	外装厚塗材 E (樹脂スタッコ)	重量感と立体感に富み、厚付けが可能です。色彩の種類が多く、耐久性・作業性に優れています。	△
張り仕上げ	成形版やタイル、石、モルタル等多様な仕上げがありますが、施工法も多様であり十分な検討が必要です。	成形版仕上げ	金属系等多様な仕上げが可能です。パネルまたはパネルを貫通して躯体に取り付けられた胴縁を使用するため施工が複雑になります。	△
		タイル張り仕上げ	パネル目地とタイル目地を合せる必要があり、施工が複雑になります。	×
		石張り仕上げ	仕上げ材としての重量が大きいため、地震時の性能確保などのため施工が複雑になります。	×
		モルタル塗り仕上げ	パネルの目地を消して仕上げると、ひび割れ発生により防水性や意匠性が損なわれる可能性があります。	×

○：適している △：注意の上使用する ×：不適

木造でヘーベルライトをご採用の場合は、姉妹品である「ヘーベルパワーボード」(厚さ37mm)のパワーボード純正塗料もご採用頂けます。詳細は、PB純正塗料サンプル帳またはホームページ(パワーボード-PB純正塗料シリーズ)をご参照ください。

<https://www.asahikasei-kenzai.com/akk/powerboard/coating/index.html>

2 仕上げ計画時のポイント

仕上げ計画にあたっては、ALCパネルとの適合性や、施工にあたってのメーカーの仕様について検討し、かつ下記の点に配慮してください。

⚠ 注意：仕上塗材で仕上げる場合には、下地処理が必要

- 仕上塗材仕上げの場合には合成樹脂エマルジョン系下地調整塗材を用いるか、合成樹脂エマルジョン系クリアシーラーを塗布した上、セメント系下地調整塗材を用いて下地調整を行ってください。いずれの場合も、ピンホールがない均一な面に仕上げてください。
- ヘーベルライトは多孔質で吸水性があるため、下地調整塗材が省略されたり塗布が不十分だと吸水を繰り返し、パネル自体の耐久性が低下するおそれがあるとともに、下地のキズや不陸を調整できない等の不具合を生じる場合があります。

⚠ 注意：膜の薄い仕上げや下地調整の省略は不適

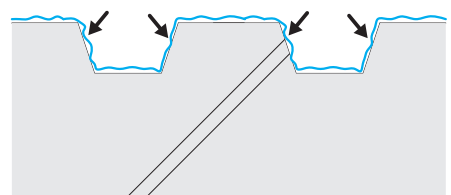
- ヘーベルライト表面には、ピアノ線カットによる凹凸があります。したがって、一般塗料の吹付けなど塗膜の薄い仕上げ材は連続した塗膜ができにくく、塗膜自体も防水性と耐久性が低いので避けてください。

⚠ 注意：意匠パネルの塗装は入念に施工する

- 意匠パネルの溝部切削面は多くの気泡が露出しています。下地処理の際には、ピンホールができないようにブラシなどを用いて目つぶしを行って、切削面が薄吹きとならないように施工してください。(図1)

(図1) デザイン面薄吹き注意

- デザイン加工傾斜面は薄吹きになりやすいので注意



⚠ 注意：重い仕上げは不適

- ヘーベルライトは普通コンクリートに比べ表面強度が小さく、強い接着力は期待できません。そのため石張りなどの質量の大きい仕上げは適しません。

⚠ 注意：海岸近くでは耐久性の高い外装材を選択する

- 海岸に近い場所では塩害防止のため高い防水性を有し、塗膜の耐久性の高い外装材を選択してください。また、パネル面取り部や、意匠パネル溝部などはピンホールができやすいので、入念な下地処理が必要です。

⚠ 注意：水蒸気の透過性を考慮する

- ヘーベルライトは若干の湿気を含んでおり、かつ水蒸気透過性もありますので、パネル両面を密閉する仕上げは避けてください。
- 特にヘーベルライトS Iパネル(低吸水性パネル)を用いた場合には、透湿性の高い外装材を選択してください。

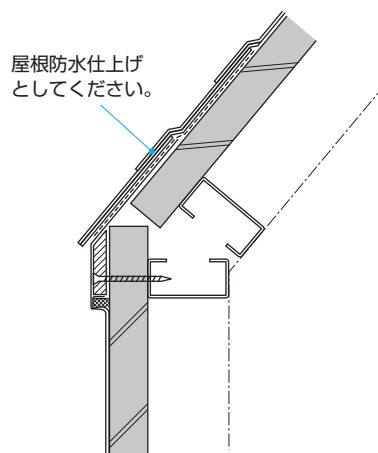
⚠ 注意：目地消しの仕上げは避ける

■シーリングされた目地部をパテなどで平滑にし、目地を消した仕上げを行うと、長い間には目地部のパテがひび割れ、剥離や漏水のおそれがあります。目地消しの仕上げは避けてください。

⚠ 注意：斜め外壁は屋根防水の仕様とする

- 傾斜した外壁は、仕上塗材やタイル張り程度では漏水の原因となります。屋根と同じ防水仕様を計画してください。
- 勾配部分の防水端末は、垂直部分に十分かぶさるように長めにとり、端末をプレート止めします。(図2)

(図2) 斜め外壁の納まり例



⚠ 注意：貫通物まわりに注意する

- ヘーベルライトを貫通する設備配管や鉄骨などの取合い部には、10～20mmのクリアランスを設け、シーリング材を充てんしてください。(図3)

(図3) 貫通物廻りはシーリング材充てん

